

何處の蛙だか、

「おころ、ころ、ころ、ころ〜〜〜。」
と鳴きました。赤い鼻緒のかつこは、大川の水の
上を、ぶか〜と流れて行きました。

昭和の金太郎

久門 嘉祐

金ちやんは六つになりました。丸々太つたお顔
色のよい力持です。お角力も強いし、それは〜
元氣よく、いつもニコ〜よく遊びます。其のく
せ金ちやんは大のこわがりんぼです。夜は電氣の
ついてないお座敷へは、こわいといつてよういき
ません。晝でもは〜かりへは獨ではよういきませ
ん。晝でも獨では一足も外へはよう出ません。一
寸出ると犬が向ふの方からやつてくる、ア、こわ
い〜とお家へ駆け込みます。皆が大喜をするお
猿がくるとこわい〜、お獅子がくるこわい〜

自轉車がブツ〜〜とくるこわい〜、飛行機
がブル〜〜こわい〜、大砲がドーンこわい
〜、一日中に幾度お家へ泣いて戻るか知れない
ので、おしまひにはもう一寸も外へよう出ず、家
の中でもういつも震えてゐるのであります。お父
さんもお母さんも、これにはほと〜困つておし
まひになり、どうしたら金太郎が強くなるかと、
そればかり案じて居られます。神さまにお参りし
ても第一に金太郎が強くなりますやうに一生懸命
にお祈りをするのでした。お寺へお参りしても、
どうぞ佛様金太郎のこわがりがなほりますやうに
と一心にお願をするのでした。お父さんがふと思
ひついて、或日おもちやから首を振る虎のおも
ちやを買つて歸つて、金ちやんに、金ちやん今日は
おりこうであつたかい、それお土産と、包紙のま
〜金ちやんに渡しました。金ちやんは大喜びで、
お父さん有難とうございますと、あわて〜包紙を

ほどき蓋をあけて見ますと、金ちやんは吃驚仰天
アレー虎がと、轉かるやうに奥のお部屋のお母さ
んの處へ逃げて行き、ワーンと泣き倒れました。

お部屋ではお仕事をしてゐられたお母さんは吃驚
なさつて、アラ金ちやん、まあどうしたのと、あ
わてゝ立ちあがり、金ちやん何が來たのと金ちや
んを確かり抱き上げ、大丈夫ですゝ、母さまがゐ
るから大丈夫です、一体何が來たのと優しくお聞
きゝになりました。金ちやんは聲をふるはせて、お
母さん虎ですゝ、お父さんが虎を買つて來て僕
に下さつたのです、虎ですゝとなほも母さんに
しがみつきました。お母さんは初めて安心をしま
した。お父さんがおもちやの虎を買つておいでに
なつたのじやと解つたからです。金ちやん、あれ
はおもちやの虎ですよ。何もこわいことはないの
です。側へ行つてさわつても噛みつきも飛びつき
もしませんよ、張子の虎です。まあよくごらん

さいとお母さんはお坐敷へ行つておもちやの虎を
取つて來て金ちやんこれごらんさい、母さんが
こんな抱つこをしても何もしませんよ、まあよ
うごらんさいよ、アーこわいゝ、まあしようの
ない金ちやんね。ごらんさい虎が笑つてゐます
よ、そら母さんのお膝へ虎がのつかつてゐますよ
と色々として見せて金ちやあんの機嫌をとつてゐ
ました。そこえお父さんがゐらして、金坊やどう
したの坊の好きなおもちやだよ、可愛い虎よ、そ
れお父さんが虎に藝當をさせて見ますよと、お父
さんは虎の首輪を持つてそれお廻りお廻りゝ大
きくお廻はり小さくお廻はりゝそれゝゝ今
度はつと立つてア、ビヨン、ア、ビヨン、ビヨン
ゝゝゝと面白さうに謠ひながらおかしく踊つて
見せました。すると今まで疊へ顔をすりつけてブ
ルゝ振へて居つた金ちやん少し頭をあげてクス
ゝ笑ひ出しました。そして、お父さん僕がついて

見ませうかと言ひ出したんですもの、お父さんもお母さんも喜びましたよ。パチ／＼／＼お手々をた／＼いて喜びました。そしてお母さんがこれについてごらんなさいと、そこにあつた物尺を金ちやんに渡しました。金ちやん急に元氣が出て、つと起き上り、エイと一つ虎をつきました。すると張子の虎ですコロ／＼／＼ところがりました。すると金さやん跳ね上つて萬才いと喜びました。愈々得意になつてエイ／＼／＼と部屋中をコロ／＼／＼ころがし廻はりました。お父さんお母さはアハハハハ、／＼／＼、笑ひながら偉い／＼と褒めました。尙もどうするのか見てゐますと、金ちやん今度はとう／＼虎に馬乗になり、自分の帯をほどいて張子の虎をがんじんがらめに縛つてしまひました。オイ虎公どうだ降参したかと威張つて見せました。けれど張子の虎は、只だまつて不相變ニコ／＼首を振つて居ります。金ちやん其のまゝ虎を

する／＼引きすつて表の方へ出て行きました。すると今／＼でこわかつた犬がワン／＼吠えながらどん／＼逃げ込みます。猫がニヤーンと家根に匍ひ上ります。鶏がコケッコとすたこら垣根の穴から逃げ込みます。金ちやんは只もう嬉しくてたまりません。どうだ何でも彼でも向ふが逃るやうになつた。僕は強くなつたんだ嬉しいな／＼、で段々と山の奥の方へ入つて行きます、猿が逃げる、狐が逃げる、兎が逃げて狸が逃げる、面白／＼で尙も段々行きますと谷があつて奇麗な清水が流れて居ります。これは幸と谷へ下り兩手に水を釣り一口に飲まふとするとたんにウオーと物凄鳴聲が耳の穴へより込まれる様に聞えました。金ちやんふと見るとつい近くの岩の穴に大きな本物の虎が寝てゐるのでした。そして續けざまにウオー／＼／＼と鳴いて居るのでした。さすがの金ちやんも吃驚して青くなつて夢中で張子の虎の蔭に小さく

なつてかくれました。でもこわくながら首だけ出してぢつと見て居ました。すると本物の虎はさも悲しそうな聲で坊つちやん丁度よいところへお出下さいました。實は私は今の先向ふの山で獅子に追はれお臂に金の斧を打ち込まれました。もう命からくこゝまで逃げて來ましたが傷くてくもう死んでしまひそうでございます。どうぞ坊つちやんお助け下さい。斧を引き抜いて下さい。お願いですく〜と幾度もく〜頭を下げて願ひます。金ちもんこれを聞いて可哀想になり、矢も楯もたまたまず、よしつ助けてやらうと、いきなり虎の側に駆けより、エイツと斧を引き抜いてやりました。そして帯を引きさいてしつかりと繻帶をしてやりました。すると虎はア、坊つちやんお蔭で命が助かりました。もう大丈夫でございます。ありがたうございますと、金ちやんを拜むのでありました。そして其の金の斧はあなたに差上げます。一寸抱

いて見て下さいと申します。金ちやんはよしつと金のまさかりを抱きました。虎は似合いますく〜あつちを向いて見て下さい、こつちを向いて見て下さい。坊ちやん金太郎じや「まさかりかついで金太郎」と謠ひ出しました。そしてまあお待ちなさい、坊つちやんの引いて來た張子の虎に息を吹きかけてあげませうと、張子の虎の側にのこ〜やつて行き、ブーブーと息を吹きかけました。すると不思議にも張子の虎はムク〜と起き上り、だん〜大きくなつて本物の虎と同じになり、のこ〜と歩き出しました。虎はニコ〜しながら。坊ちやんさあ其の虎におのりなさい。そう〜其の通り「それまさかりかついで金太郎、虎にまたがりお馬のけいこ、ハアイシドウドウ、ハイドウドウ〜」と謠ひました。張子の虎は強い金ちやんはをのせて謠に合はせてのこ〜歩き、山を下りて金ちやんのお家へ歸りました。こわがりの金ちやんが、本當に強くなり、熊より強い虎にのつた金太郎になりましたとさ。おしまひ。